

春のゼフ卵探し

今シーズン積み残しの2種を求めて

その1:ウラナミアカシジミ 2022年4月11日

2021～2022年のゼフィルス卵探しシリーズ。道南のフジドリとウラクロシジミは結局行けず、最後はウラナミアカシジミとウラキンシジミで締めることになりました。

まずはウラナミアカシジミ。このゼフは本道では産地が限られています。

その理由はこの種が食樹としてコナラにこだわっているからだと思います。コナラがよく見られるのは石狩低地帯の丘陵地です。

北広島市の虫研後輩のKさんにポイントを教えてもらって、相棒の辻氏とアタックしました。

場所は北広島市からほど近い島松周辺です。

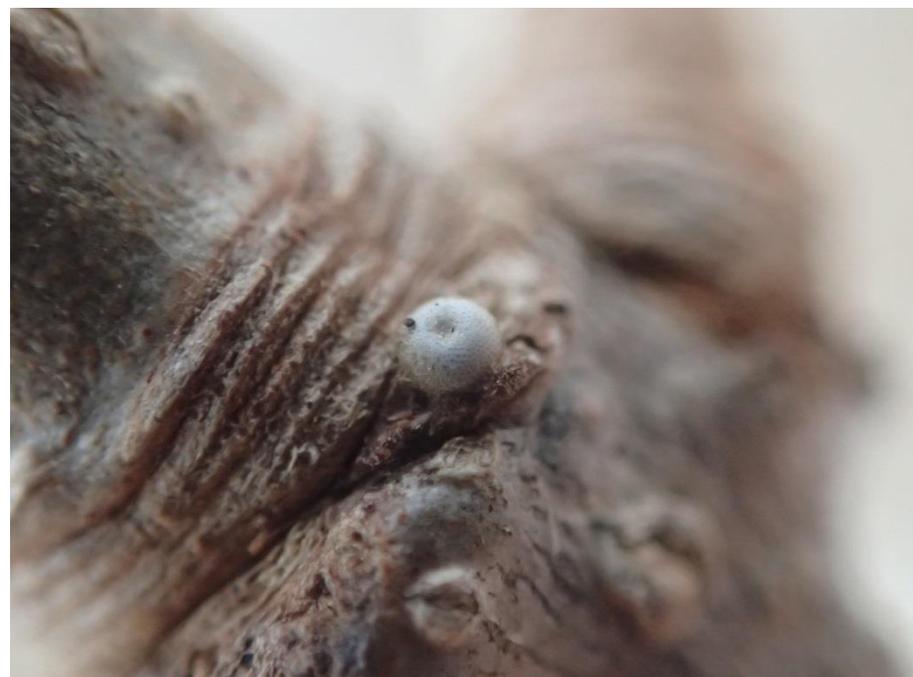


愛車ニューエブリと辻氏

日陰にはまだ雪が残っています。コナラの横に伸びた枝の周辺を探し始めます。ウラナミアカシジミもアカシジミの仲間ですので卵は毛やごみに隠されています。細い枝先をなめるように見ていくとすぐに発見できました。Kさんが地図で細かく示してくれた1本のコナラの木でした。



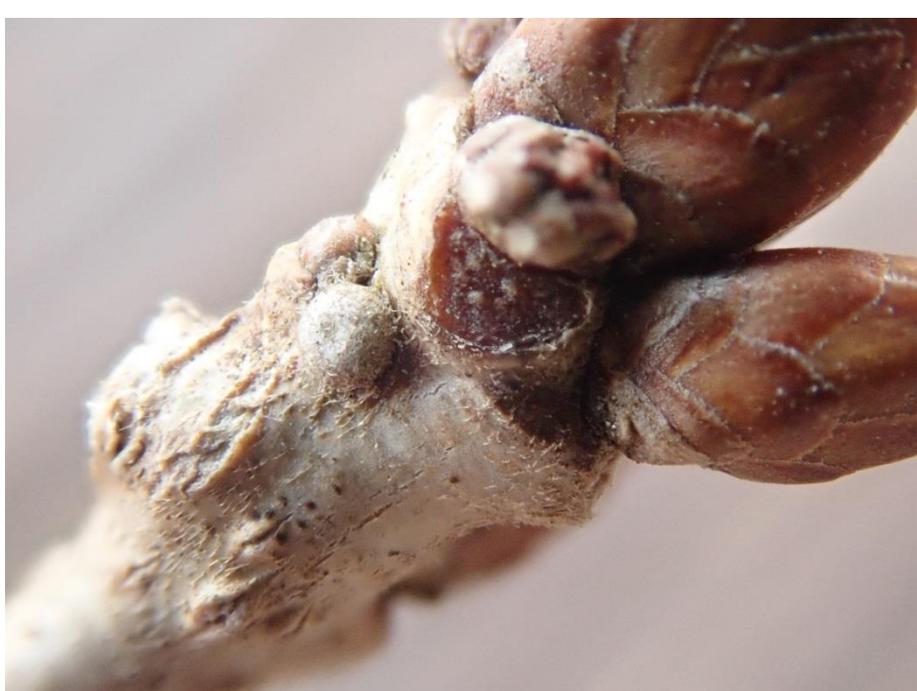
細い枝についていたウラナミアカシジミの卵



冬芽の基部にも付いています。ゴミで丁寧に隠されていてよく見ないと見逃してしまいます。探しやすいコナラの低い木や「ひこばえ」も探してみましたがついていません。ウラナミアカシジミよりも多く見つかるのはミズイロオナガシジミ。冬芽にはジョウザンミドリシジミの卵もついていました。

ある程度大きな木の横に伸びた枝先がいいみたいです。

とりあえず、ウラナミアカ撮影成功です。



ミズイロオナガシジミの卵



ジョウザンミドリシジミの卵

その2:ウラキンシジミ 2022年4月22日

次はウラキンシジミ。ウラキンシジミの食樹はアオダモ。沢筋によく見られる木です。探す場所は富良野近郊の島ノ下地域。いつも幼虫や幼虫のパラシュートを見ている沢です。

平地では雪はすっかり消えているのですが、現地に行ってびっくり。林道にはまだ雪が積もっていました。



斜面には雪解けの特徴的な「根明け」の面白い姿が見られます。

ざくざく雪を踏みしめて林道わきのアオダモを探しますが、またまたびっくり。

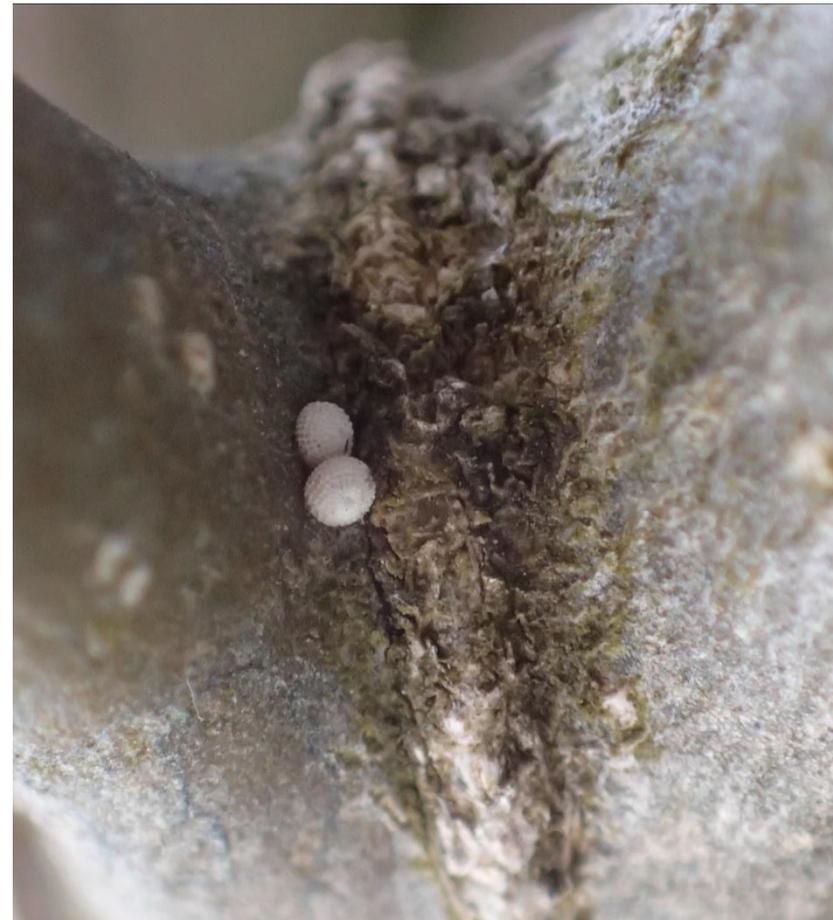
小さい木の枝先はことごとくエゾシカにかじられ切断され冬芽が無くなっていました。雪が積もった後に雪の上にとび出ている部分が食われていますし、雪解けの後は樹皮が齧られていました。



アオダモの木の肌は白っぽくつるつるなので葉が落ちている冬でも見つけやすい木です。木を見つけては斜面に滑り落ちないように注意しながらよくしなる枝を引き寄せ、シカに齧られている枝先を見ていくと、まず2卵発見。

枝の太さは小指の先くらいです。樹皮がツルツルなのでこのような樹の又や皺に複数卵生れています。

でも孵化した幼虫は芽が少ないので苦労するだろうな。



この木(樹皮がシカに食われて
いる)には卵塊が2個並んでつ
いていました。



この卵塊(全部で17
個あり)は何者か
によって食い尽くされて
いました。



おまけ：S君と旭川でゼフ卵探し。 2022年4月20日

カシワ林の主、ウラジロミドリ、ハヤシミドリ、キタアカシジミの若齢幼虫が今まであまり撮ってなかったなので、その準備として卵の位置をマークすべく旭川の嵐山方面に行ってきました。同行はヒメチャ研究を続ける教育大旭川のS君。彼はヒメギフなどの春の蝶を狙っています。



撮影しやすいような低い木を何とか探し出しマークできました。その一つがこのカシワ(ミズナラとの交雑種?)何と折れ曲がっているのですが生きているようで、キタアカもそこそこついている。これは撮影しやすいそうです。

ということで今後の展開はまた後日報告します。



これはアイノですね

以上

BY:T,Nagamori